

# 九州病害虫研究会

## 第96回研究発表会

### プログラム

共催 日本植物病理学会九州部会

2018年11月7日（水）

会場 宮崎市民プラザ

〒880-0001 宮崎市橘通西1丁目1番2号

TEL: 0985-24-1008

#### 発表会場および進行予定

虫害 講演15分（1鈴10分、2鈴15分） 質疑5分（終鈴20分）  
病害 講演10分（1鈴8分、2鈴10分） 質疑2分（終鈴12分）

虫害会場 宮崎市民プラザ 4F ギャラリー（虫害）		病害会場 宮崎市民プラザ 4F ギャラリー（病害）	
9:30~11:30	No.1~6	9:25~9:30	事務連絡
		9:30~12:06	No.1~13
昼休み			
13:00~14:30	特別講演	13:00~13:40	No.14~16
		13:40~14:30	受賞講演
14:30~16:30	No.7~12	14:30~17:15	No.17~29
		17:15~	植物病理学会九州部会総会

九州病害虫研究会

(The Association for Plant Protection of Kyushu)

<http://9byochu.sakura.ne.jp/main.html>

## 【講演にあたっての注意事項・その他】

・講演はWindows Microsoft PowerPoint 2000以上で作成したスライドを液晶プロジェクターで投影しながら行って頂きます。(パソコンは、予め会場に設置したものを用います。ご自身のパソコンは接続できませんのでご注意ください。)

・講演ファイルは必ずCD-ROMに書き込んでお持ち下さい。

・USB メモリは使用できませんのでご注意ください。

・ファイルの入ったCD-ROMは、午前・午後の開始前までに会場係に直接届け、作動の可否をご確認下さい。発表用パソコンへのインストールは、病害・虫害各会場係が行います。

・ファイル名は、講演番号(半角2ケタ)+発表者氏名(例「03 九州太郎」)としてください。

・講演要旨は、本会ホームページ内に掲載しております。印刷してご持参下さい。

## 【九州病害虫研究会第 95 回春季研究発表会の開催お知らせ】

第 97 回春季研究発表会を下記のとおり開催します。

### 記

1. 日時 2019年1月31日(木) 9:00~17:00 (予定)
2. 会場 菊南温泉ユウベルホテル  
〒861-5517 熊本県熊本市北区鶴羽田3丁目10-1  
(TEL) 096-344-5600  
会場ホームページ (<http://kikunan-ublhotel.jp/>)

詳細については後日、当会ホームページ (<http://9byochu.sakura.ne.jp/main.html>) にて掲載いたします。

## 病害の部

会場：宮崎市民プラザ 4F ギャラリー（病害）

講演 10 分（1 鈴 8 分、2 鈴 10 分） 質疑 2 分（終鈴 12 分）

（●の講演者は、学生優秀発表者賞授賞候補者）

<午前の部>

9:25 事務連絡

座長：藤原和樹（九沖農研）

---

- 1 9:30 竹の生育年数、発酵および熱処理の有無が異なる竹粉によるトマト青枯病の防除効果  
●藤堂麻依<sup>1</sup>・中原浩貴<sup>2</sup>・松添直隆<sup>1,2</sup>  
(<sup>1</sup>熊本県大院環境共生・<sup>2</sup>熊本県大環境共生)
- 2 9:42 各種植物から分離された *Pseudomonas cichorii* における D-酒石酸利用性に関する遺伝子領域の解析  
●谷 沙世・飯山和弘・土屋健一・古屋成人  
(九大院農)
- 3 9:54 PIRA-PCR 法によるシトクロム c オキシダーゼ I 遺伝子のタマネギベと病菌特異的一塩基多型の検出  
●高木里歩・草場基章  
(佐賀大農)

座長：小林有紀(九沖農研)

---

- 4 10:06 CRISPR/Cas9 システムを用いたサンセベリア炭疽病菌の効率的な遺伝子破壊株の作出  
●岡村勇汰・中村正幸・岩井 久  
(鹿児島大農)
- 5 10:18 イネいもち病菌の相同組換え関連遺伝子破壊株における DNA リセクション反応検出系の構築に向けて  
●木口歌菜<sup>1</sup>・田中寿樹<sup>1</sup>・荒添貴之<sup>2</sup>・佐久間哲史<sup>3</sup>・山本 卓<sup>3</sup>・桑田 茂<sup>1</sup>・大里修一<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>明治大院農・<sup>2</sup>東理大院理工・<sup>3</sup>広島大院理)

- 6 10:30 湛水および畑作条件土壌中におけるサトイモ疫病菌の密度推移について  
●佐藤圭・安部磨己斗・田中勝・徳永隼一・菅野善明  
(南九州大環境園芸)

座長：森脇丈治 (九沖農研)

---

- 7 10:42 イネばか苗病菌に高温順化が生じるための培養時間  
●横井信太郎<sup>1</sup>・鈴木啓史<sup>2</sup>・草場基章<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>佐賀大農・<sup>2</sup>三重中央農改セ)
- 8 10:54 アスパラガス属野生種のハマタマボウキの斑点性病斑から分離された  
*Alternaria* 属菌について  
●大迫佳奈<sup>1</sup>・Myo Zaw<sup>2</sup>・飯山和弘<sup>1</sup>・古屋成人<sup>1</sup>・松元 賢<sup>2</sup>  
(<sup>1</sup>九大院農・<sup>2</sup>九大熱研セ)
- 9 11:06 *Colletotrichum tropicale* および *Phomopsis sp.*によるカニステル葉  
枯病の発生(新称)  
●藤森沙羅・田場聡・本田レオ・関根健太郎  
(琉球大農)

座長：富高保弘 (九沖農研)

---

- 10 11:18 アシベンゾラル S メチルは植物における SAGT の転写活性を抑制する(3)  
●小林優大<sup>1</sup>・増田 税<sup>2</sup>・竹下 稔<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>宮大院農・<sup>2</sup>北大院農)
- 11 11:42 マルチプレックス RT-PCR 法によるラナンキュラス微斑モザイクウイルス  
(RanMMV) およびラナンキュラス奇形葉ウイルスの検出  
●東桃香・岡田尚己・篠田尚希・菅野善明  
(南九州大環境園芸)
- 12 11:30 東アジア諸国におけるカブモザイクウイルスの組換え体について  
●平野優徳・松岡弘記・大島一里  
(佐賀大農)

- 13 11:54 スイカ灰白色斑紋ウイルスによるピーマンえそ輪紋病（新称）  
●具志堅優也<sup>1</sup>・富高保弘<sup>2</sup>・富田麗子<sup>1</sup>・玉代勢優奈<sup>3</sup>・島田涼子<sup>4</sup>・眞境名元次<sup>3</sup>・  
田場 聡<sup>1</sup>・関根健太郎<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>琉球大農・<sup>2</sup>九州沖縄農研・<sup>3</sup>沖縄病害虫防技セ・<sup>4</sup>神奈川農技セ)

<休憩> 12:06~13:00

<午後の部>

座長：菅野善明（南九州大環境園芸）

- 14 13:00 次世代シーケンスデータから植物ウイルスゲノムを検出するインフォ  
マティクスツールの構築  
富田麗子<sup>1</sup>・佐藤行人<sup>2</sup>・齋藤星耕<sup>2,3</sup>・藤本真悟<sup>2</sup>・田場 聡<sup>1</sup>・○関根健太郎<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>琉球大農・<sup>2</sup>琉球大戦略PJ・<sup>3</sup>現沖国大経済)
- 15 13:12 Involvement of the 2b gene coding region of cucumber mosaic  
virus in induction of shoestring-like leaf blade in tomato  
○Yu Yu Khaing, Yudai Kobayashi, Minoru Takeshita  
(Fac. Agri. Univ. Miyazaki)
- 16 13:24 ホオズキモザイク病に対する種子乾熱処理の防除効果  
○米田恵美<sup>1</sup>・富高保弘<sup>2</sup>・石松敏樹<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>大分農林水研花き・<sup>2</sup>農研機構・九沖農研)

13:40 平成 29 年度受賞講演

講演 40 分，討論 5 分

地域貢献賞

座長：菅 康弘（長崎農技セ）

「暖地における特産野菜類病害の生態解明と防除技術確立」

前 長崎県病害虫防除所長

（現 長崎県立農業大学校）

松尾 和敏 氏

- 17 14:30 福岡県で栽培されたコリアンダーより分離された細菌の同定  
○森脇丈治  
(九沖農研)
- 18 14:42 鹿児島県で発生した *Ralstonia solanacearum* によるオリーブ立枯病  
○西 菜穂子<sup>1</sup>・堀田光生<sup>2</sup>・西 八束<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>鹿児島農開セ・<sup>2</sup>農研機構農環研)
- 19 14:54 菌液浸漬法による青枯病菌表面汚染ショウガ根茎の作成と温湯処理の殺菌効果  
○中村吉秀<sup>1</sup>・江頭桃子<sup>1</sup>・堀田光生<sup>2</sup>  
(<sup>1</sup>長崎農技セ・<sup>2</sup>農研機構農環研)
- 20 15:06 本邦のジャガイモから採取された青枯病菌のジャガイモ品種への病原力による類別  
○波部一平  
(長崎農技セ)

- 21 15:18 サトイモ疫病に感染した種イモは水浸漬で選別できる  
—種イモによるリスク軽減技術の確立—  
○西岡一也<sup>1</sup>・児玉真一朗<sup>2</sup>・西 八束<sup>1</sup>・湯田達也<sup>1</sup>・景山幸二<sup>3</sup>  
(<sup>1</sup>鹿児島農総セ・<sup>2</sup>鹿児島県沖永良部事務所・<sup>3</sup>岐阜大学流域研セ)
- 22 15:30 大分県におけるイネ稻こうじ病の発生状況  
○鈴木 智範・岡本 潤・佐藤 通浩  
(大分農林水研)
- 23 15:42 宮崎県都井岬におけるソテツ葉枯れ症の発生と原因糸状菌について  
○土屋健一<sup>1</sup>・佐藤豊三<sup>2</sup>・櫛間義幸<sup>3</sup>・市川和規<sup>4</sup>・秋田 優<sup>5</sup>・高橋一哉<sup>5</sup>  
(<sup>1</sup>九大院農・<sup>2</sup>農研機構遺資セ・<sup>3</sup>宮崎総農試・<sup>4</sup>東大院農・<sup>5</sup>串間市役所)

座長：中村吉秀（長崎農技セ）

---

- 24 15:54 ベと病多発生土壌で育成したタマネギ幼苗におけるべと病菌卵胞子の形成  
○渡邊幸子<sup>1</sup>・菖蒲信一郎<sup>1</sup>・福永正照<sup>2</sup>・中島寿亀<sup>3</sup>・田代暢哉<sup>4</sup>  
(<sup>1</sup>佐賀農研セ・<sup>2</sup>佐賀農研セ白石・<sup>3</sup>佐賀農技防・<sup>4</sup>佐賀上場営農セ)
- 25 16:06 タマネギべと病の胞子飛散および関連する気象条件  
○菖蒲信一郎・渡邊幸子  
(佐賀農研セ)
- 26 16:18 タマネギべと病菌の分生子発芽に及ぼす温度, pH, 光の影響  
○田代暢哉<sup>1</sup>・浦川綾子<sup>1</sup>・園田亮一<sup>2</sup>・川上 颯<sup>2,3</sup>・中山伸一<sup>1</sup>・宮崎尚子<sup>1</sup>・藤原和樹<sup>2</sup>・田中義樹<sup>1</sup>・宮坂 篤<sup>2</sup>  
(<sup>1</sup>佐賀上場営農セ・<sup>2</sup>農研機構九州沖縄農研・<sup>3</sup>現：農研機構西日本農研)

座長：菖蒲信一郎（佐賀農研セ）

---

- 27 16:30 イチゴ「さちのか」, 「ゆめのか」における UV-B 照射と天敵を組み合わせた減化学農薬防除体系  
○江頭桃子・中村吉秀  
(長崎農技セ)
- 28 16:42 未硬化葉を用いたマンゴー炭疽病の簡易病原性検定法とマンゴー遺伝資源における抵抗性品種の選抜  
○澤岬哲也<sup>1</sup>・與儀喜代政<sup>2</sup>・仲村昌剛<sup>1</sup>・松村まさと<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>沖縄農研セ名護・<sup>2</sup>沖縄農研セ)
- 29 16:54 *Pseudomonas chitorii* による施設栽培マンゴーの枝枯症状の発生  
○櫛間義幸<sup>1</sup>・阿万暢彦<sup>1</sup>・久野公子<sup>2</sup>・久保知佳<sup>1</sup>・若杉潤也<sup>3</sup>  
(<sup>1</sup>宮崎総農試・<sup>2</sup>宮崎県中部農林振興局・<sup>3</sup>元宮崎総農試)
- 17:15 植物病理学会九州部会総会

## 虫害の部

会場：宮崎市民プラザ 4F ギャラリー（虫害）

講演 15 分（1 鈴 12 分、2 鈴 15 分） 質疑 5 分（終鈴 20 分）

### <午前の部>

9:25 事務連絡

---

- 1 9:30 チャノミドリヒメヨコバイの卵寄生蜂の探索と天敵温存植物の評価  
○阿部青葉・安達鉄矢<sup>1</sup>・Adema Barry・大野和朗  
(宮崎大農・<sup>1</sup>宮崎大 TT)
  - 2 9:50 施設果菜類でのタバコカスミカメおよびスワルキーカブリダニの利用  
○藤原彩夏・大野和朗  
(宮崎大農)
  - 3 10:10 天敵温存植物が内部幼虫寄生蜂ギンケハラボソコマユバチの生存に及ぼす効果  
○阿部 暁・大野和朗  
(宮崎大農)
  - 4 10:30 捕食性天敵タバコカスミカメの寄主植物選好性  
○長友砂樹・大野和朗  
(宮崎大農)
  - 5 10:50 大分県の里山放牧林における生物多様性：農業生産と環境保全の両立  
○田中幸一<sup>1,2</sup>・楠本良延<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>農研機構・<sup>2</sup>東京農業大学
  - 6 11:10 *strigosa* エンバク「KH1a」のネグサレセンチュウ抑制効果  
○上杉謙太・串田篤彦<sup>1</sup>・桂真昭・上床修弘・村田岳・岩淵慶<sup>2</sup>  
九州沖縄農研・<sup>1</sup>北海道農研・<sup>2</sup>ホクレン
- 

<休憩> 11:30~13:00

---



<特別講演>

講演 40 分, 討論 5 分

13:00 アリモドキゾウムシの個体群レベルでの識別技術開発に向けて

吉武啓

(九州沖縄農研)

13:45 九州におけるイネウンカ類研究：これまでとこれから

松村正哉

(農研機構本部)

<午後の部>

7 14:30 トビイロウンカの薬剤耐性発達によるトビイロウンカ抵抗性 2 品種に対する加害性への影響について

○藤井智久・田村克徳・中西愛・真田幸代・松村正哉・秋月岳

(九州沖縄農研)

8 14:50 宮崎県都城市におけるトビイロウンカ無被害水田土壌中のウンカシヘンチュウ個体数推移 2017~2018

○吉田陸浩・野中隆志<sup>1</sup>・木村貴志・白川陽一朗<sup>1</sup>・日高圭将<sup>1</sup>・藤井真理<sup>1</sup>

(九州沖縄農研・<sup>1</sup>宮崎県北諸県農林振興局・\*現：宮崎県中部農林振興局)

9 15:10 JPP ネットのウンカ飛来予測システムを活用したトビイロウンカ見取り調査の有効性

○楠本公治・安部智子・徳永恵美

(福岡農林試)

10 15:30 鹿児島県へのミカンコミバエの飛来リスク情報を提供するソフトウェア

○大塚彰・松村正哉<sup>1</sup>

(革新工学セ・<sup>1</sup>九州沖縄農研)

11 15:50 果樹カメムシ類の捕獲効率を高める予察灯光源の条件

○齊藤紀子・足立龍弥・手柴眞弓・藤田和久<sup>1</sup>・平江雅宏<sup>2</sup>

(福岡農林試・<sup>1</sup>光産業創成大学院大学・<sup>2</sup>中央農研)

12 16:10 近年九州で分布が確認されたオランダガラシアブラムシの発生消長とカブモザイクウイルス媒介の可能性

○安達修平・松田浩輝<sup>1</sup>・中林ゆい<sup>2</sup>・尋木優平<sup>1</sup>・八坂亮祐<sup>1</sup>・大島一里<sup>1</sup>・徳田誠<sup>1</sup>

(九州沖縄農研・<sup>1</sup>佐賀大・農・<sup>2</sup>京都府大・院生命環境)